第 9 週 ―主の回復が現在の邪悪な時代に相対することと、召会の終末論―

鳥瞰	主の回復は現在の邪悪な時代（邪悪な宗教の時代）に相対します。宗教は、人の思いがサタンの扇動と指示を受けて神のエコノミーに反対するために形成したものです。パウロにとって、現在の邪悪な時代はユダヤ教でした。今日のわたしたちにとって、現在の邪悪な時代は変形し堕落したキリスト教です。召会の終末論は、カトリック、プロテスタント、当初の召会と回復された召会を含んでいます。主は再来するとき、各種の召会を裁き、対処します。造り変えられて金、銀、宝石となっている勝利者たちは褒賞を受けます。宗教は終わらされますが、キリストの花嫁は用意を整えます。	
	真理要点	経験適用
1日	1．ガラテヤ人への手紙第 1 章が示している、宗教がキリストに相対することを説明してください。 2．何故現在の邪悪な時代から救い出される必要があるのでしょうか？	1．辞書は、「宗教」は良い言葉であると告げるかもしれませんが、ガラテヤ人への手紙第 1 章は宗教がキリストに相対することを示しています。宗教は召会を迫害し、破壊し、根絶しようとするものです。……宗教とは、キリストの臨在と実際なしに、キリストのために何事かを行なうものです。キリスト教にいる多くの人たちは、その外側の伝統や祭日を尊ぶだけで、純粋な方法で真にキリストのためではありません。 2．時代は、サタン的な体系であるこの世の一部分です。サタンはそれを用いて神の民を強奪し占有して、彼らを神と神の定められた御旨から遠ざけています。罪と邪悪な時代はいずれも、十字架につけられたキリストによって対処されました。彼は神のみこころにしたがって、十字架上でご自身をわたしたちのために与えられました。
2日	1．ヨハネによる福音書第 10 章より、羊の囲いと群れの違いについて説明してください。 2．サタンはどの二種類の世界を使って、人を神から遠ざけていますか？	1．ヨハネによる福音書第 10 章の時、神の民、彼の羊はユダヤ教という囲いの中にいました。キリストが来たのは、彼の羊を囲いから連れ出して、彼らを異邦人信者たちと共に一つの群れ、すなわち召会へと形成するためでした。このゆえに、囲いとは宗教であり、群れとは……召会です。キリストは、さまざまな宗教の囲いから彼の羊を救い出して、彼らを共に集めて一つの群れにしようとしています。 2．サタンの目標は、人を神の永遠の定められた御旨の完成から遠ざけることです。もともと、一種類目の世界、すなわち、世俗世界が人を神の定められた御旨から遠ざけていましたが、神が人を彼ご自身へと連れ戻した後、サタンは二種類目の世界を、すなわち宗教世界を形成して、再び人を神から遠ざけました。実は、世界のどちらの面も、すなわち世俗の面も宗教の面も、人を神から遠ざけるのです。
3日	1．神の目に、どのような事が邪悪でしょうか？ 2．宗教に対して私たちはどのような認識と態度を持つべきでしょうか？	1．神の目に、キリストの臨在や実際のない、キリスト教の古くて伝統的な実行は、現在の邪悪な時代の一部分です。宗教的な時代が邪悪であるのは、それが人々を神のみこころであるキリストと召会から遠ざけるからです。神の目に、わたしたちをキリストから遠ざけるものほど邪悪なものはありません。 2．宗教の暗やみは、全地を覆っています。人々は宗教によって麻ひさせられており、完全にその影響の下にあります。ですから、主には宗教の中では、彼の定められた御旨を成就する道がありません。わたしたちと宗教の間にあるのは十字架です。この世としての宗教はわたしたちに対して十字架につけられ、わたしたちも宗教に対して十字架につけられてしまいました。
4日	1．主の回復の中と宗教はどのように違いますか？ 2．パウロはどのようにして現在の邪悪な宗教の時代から救い出されましたか？	1．宗教には何の光も、命も、真理も、実際もありません。すなわち、キリストがありません。主の回復は今日の宗教と絶対に異なっています。わたしたちがここにいて、神の回復の中で神のエコノミーを遂行しています。回復の中で、わたしたちは大きな堆積の木、草、刈り株よりも、むしろ少量の金、銀、宝石を持ちたいのです。 2．パウロはキリストを見始めました。神は喜んでキリストをパウロの中に啓示しました。彼はガラテヤ人に、律法を守る事柄ではなく、キリストがわたしたちの中に生きる事柄を手紙に書きました。キリストはわたしたちの中に啓示されるだけでなく、またわたしたちの中に生きるべきです。キリストはわたしたちの命と生活の両方でなければなりません。
5日	1．なぜ使徒たちは回復に関する各書簡を書いたのでしょうか？ 2．啓示録第 17 章で書かれている、カトリックの最後とはどういったものでしょうか？	1．使徒たちは五十年足らずで当初の召会を確立しました。しかしペテロ、ヨハネ、パウロがまだ生きていた間に、召会は当初の状態から落ちて堕落した状態、変形した状態、さらには変質した状態になりました。ペテロ、ヨハネ、パウロのすべての「第二」の手紙（例えば、ペテロの第二の手紙、ヨハネの第二、第三の手紙、コリント人への第二の手紙など）これらの手紙はすべて、失われた召会を回復するためでした。 2．第六世紀の終わり近くになって、カトリックが存在するようになりました。その時、法王はカトリックの権威として承認されました。啓示録第 17 章において、カトリックは金の杯によって比喩的に説明されています。金の杯は、背教の教会がその外観に神のものを持っていることを表徴しています。……女が手に持っている杯は金でできていますが、それは忌むべきものと、彼女の淫行の汚れた物に満ちています。反キリストと彼の十人の王たちは、大いなるバビロンを迫害して、彼女を燃やします。それがカトリックの最後となるでしょう。
6日	1．プロテスタントの毒麦の結末はどのようなものですか？ 2．主が再来される時、どのようにして当初の回復された召会を裁き対処されますか？	1．プロテスタントは、偽信者たちに満ちています。マタイによる福音書第 13 章で、主はわたしたちに、天の王国は自分の畑に良い麦の種をまく人のようなものであるが、彼の敵がやって来て、小麦の間に毒麦をまいて立ち去ったと告げました。主は、この時代の満了の時に、御使いたちを遣わして、これらの毒麦（あらゆる種類の召会にいるすべての偽の名ばかりのクリスチャンを表徴する）をみな集めて、火の池に投げ込むと言いました。彼らの結末は、反キリストと偽預言者と同じになります。 2．彼はあらゆる種類の召会の中から彼の真の信者たちを彼の裁きの座の前に召し集めて、彼の裁きと対処を受けさせます。その裁きにおいて、主は彼らが金、銀、宝石をもって建造してきたのか、それとも木、草、刈り株をもって建造してきたのかを判別します。木、草、刈り株による働きは焼き尽くされ、もう一方で金、銀、宝石をもって建造してきた人たちは、千年期における新エルサレムを構成する材料となって、新天新地における新エルサレムにおいて究極的に完成します。
まとめ	主が再来した時、わたしたちはみな裁きの座の前に立ち、裁きと対処を受けます。彼の試験を通過にするには、わたしたちが金、銀、宝石に造り変えられているか、それとも木、草、刈り株であるかによります。今日、わたしたちは狭い道を取ります。生活の中でキリストを認識することを学び、自己を認識し、また肉を認識し、どのようにして十字架につけられ神人の生活をするかを学ぶべきです。キリストのからだの建造のため、私たちは労苦して生養教建を実行する必要があります。これは新約の勤勉福音の祭司が行なうことです。これは神のためだけでなくわたしたち自信のためでもあります。	